グローバル人材育成プログラムに参加して

三　輪　琉　星
Ryusei MIWA
機械工学・ロボティクス課程　4 年

1. プログラムの目的

このプログラムでは，アメリカのカリフォルニア州内のサンフランシスコやサンノゼで 18 日間滞在し，現地の企業で，職業体験を行った．

最初の 4 日は現地のエージェントの方とサンフランシスコやシリコンバレー内の企業，スタンフォード大学に訪れ，その後の 2 週間では，平日は働き，週末は自由行動をするという内容だった．

プログラムに参加するにあたって，目標を 2 つ設定した．1 つ目は英語のスピーキングスキルを身につけることだ．学校の授業や普段の学習では，リーディング力とリスニング力が培われるが，スピーキング能力を身に付けるには，ネイティブの方と話したりして向上させる必要がある．このプロジェクトでは，ホームステイ先と就労先のどちらでも日本語が通じないため，常に英語漬けの生活となるのだ．そのため，英語力の向上をこの機会に達成するために目標を設定した．

2 つ目は能動的に働くことだ．私は日本で「指示待ち人間にはなるな.」と言われたことがあった．そのため，自分ができそうなことや，やってみたいことを積極的に行い，尚且つ英語での指示に上手く対応するため，英語のリスニング力も高めたい．

2. 職業体験

私はサンノゼに位置する Norcal Aviation Services で職業体験をした．

この企業では主に，セスナのような小型航空機の Repair（修理），Inspection（検査），Maintenance（整備）の 3 つを行っていた．

私に与えられた業務は毎日異なり，点火プラグの洗浄やタイヤの交換，翼部分のパネルを電動ドリルで取り外すなど，航空機のエンジンのみならず，様々な部分の業務を体験できた．最初は何をしていいかわからない状態で，企業の人が行っている業務を見ることばかりだったが，日々の業務経験を経て，最終的には，仕事を与えられたら，自主的に工具箱から工具を取り出して，簡単な作業ではあるが，一人前に行える状態にまで成長できた．

企業の雰囲気はとても温かく，みんな仲が良くて働きやすい環境だと感じた．金曜日にはパーティーを開催したり，昼食に連れていって下さったりして，初心者の私にも皆，とても親切だった．

図 1　企業でパーティーを行った時の様子

また人種の偏りがなく様々な人種の方々が協力しあって仕事をされていた．日本のほとんどの会社は日本人が圧倒的な割合を占めているため，日本ではめったに見られない職場の雰囲気だった．しかし，アメリカでは，このような職場は当たり前なのではないかと思った．そして，人種によって，生まれ育ち方や考え方は日本人同士の場合よりもさらに異なるため，交流を深め，お互いの考えを尊重することが重要だと感じた．

3. ホームステイ

私が宿泊した家のホストファミリーはフィリピンにルーツを持つ夫婦の方々だった．ホストマザーは会話をすることが大好きで，私が家にいるときには，たくさん英語で会話をし，私からも積極的に会話の話題をふったりして，英語のスピーキング能力やコミュニケーション力の向上を図ることができ

た.

ホストファミリーの方々は日本のことが大好きで，過去にもたくさんの日本人留学生などを迎え入れていたと仰っていた．日本から私は扇子やお香，お菓子などをお土産として渡したとき，ものすごく喜んでくださった.

食事も私たち日本人の口に会うように，日本の食材や白米を使用されており，とても親切だった．日本食以外に，フィリピンの料理もたくさん作って，説明してもらったため，フィリピンの食文化についても知ることができた.

4. アメリカでの生活

ホームステイ期間中，土曜日と日曜日はフリーだったため，私は交通機関を使って，サンフランシスコやオークランド，サンノゼのダウンタウン周辺を訪れた.

アメリカでは，日本と比較して圧倒的に物価が高く，マクドナルドでも 1500 円ほどで，ペットボトル飲料も 200 円以上だった．そのため，出かけるときは家から飲み物を持ち出したりすることを徹底していた.

またアメリカは車社会で，交通機関（とくに電車）が日本よりも劣っており，予定時刻に到着しなかったり，同じ距離間でも自動車の方が目的地に早く到着したりすることが当たり前だった．やはり，アメリカでは自動車の所持が必須だと改めて実感した．また走っている車も GM 社やクライスラーグループなどの米国車よりも，トヨタやホンダなどの日本車が圧倒的に多く，日本製の製品は世界からも信頼を得ていることに気が付いた．近年日本にも進出しているテスラ車の割合も高く，自動車業界の EV 化が日本よりも進んでいた.

私は滞在中に，アメリカ人とは，何を指すのか疑問になった．私たち，日本人は日本にルーツを持ち，同じ特徴を持つが，アメリカは移民国家であるため，異なる髪色，肌色などをそれぞれ持っているため，アメリカ人と一括りにすることはできないことに気づいた.

5. まとめ

このプログラムを通して，自身の弱点を発見した．その弱点とは英語の発音だ.

本プログラムの目標として，「英語のスピーキング力の向上」を設定した．滞在中には，積極的に研修先やホストファミリーの家で英会話の能力に加えて，コミュニケーション力の向上ができたと実感した.

その際，英語の単語の知識量もあり，日常会話の英文を発することはできたが，度々聞き返されることがあった．それは，英語の発音がよくなかったり，その英単語の発音がわからなかったりすることで生じた．学生生活での，英語の授業や自習の際に，英語の文法や単語，読解ばかりを学習しており，声に出して，発音することはほとんどなかった．そのため，発音方がわからず，言いたい英語は準備できているのに，話すことができない状況に陥ることがあった．よって，英語の学習に，いかに発音練習がいかに大事なのかをこの研修で実感できた.

私は将来，日本を拠点にしつつ，海外出張があるような自動車業界の会社に就きたいと考えている．本プログラムで，グローバルな人材とは何かを改めて考え直し，尚且つ機械に関する知識も得られた．このプログラムで得た経験は，英語力やコミュニケーション力も以前の自分よりも向上させ，必ず私が社会に出たときに力になるに違いない.